

平成22年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	乳幼児医療費助成事業				開始年度	昭和49年度	
基本目標	社会福祉の充実したまちづくり				終了年度		
担当課(局)	健康福祉課	担当係	子ども支援係	記入者	佐藤 留美	評価者	井上 敏郎
21年度決算	33,995	千円	22年度予算	34,198	千円	事業の実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 単独
21年度人件費	1,258	千円	22年度人件費	1,275	千円	事業従事者数	0.18 人 0.18 人

◎事務事業の目的・内容

事業の目的	乳幼児期における疾病等の治療を容易にし、乳幼児の福祉の向上と健全な発育の促進を図る。
事業の内容	6歳に達する日以降の最初の3月31日までの乳幼児が対象。 現物給付のため、保険証と乳幼児受給資格者証を診療機関に提出することにより、自己負担額一診療報酬明細書あたり350円受診できる。(ただし、県外受診は償還払により助成。)

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名	何を狙い、どのような成果が得られたのか
	1 一部負担金	3割の医療費負担から高額療養費、付加給付費、自己負担額を差し引いたもの。
	2 県補助金	平成20年10月診療分から、県の補助基準が拡充し、3歳以上から就学前児童の外来分も県の補助基準に合わせたとき、町医療費負担の1/2が交付されるようになった。
	3 受給者数	
活動指標	活動指標名	どれほどの活動をしたのか、事業の手法、手順等を詳細に
	1 助成件数	
	2	
	3	

◎達成状況

指標名		単位	20年度	21年度	22年度
成果指標	一部負担金	目標値	円		
		実績値		33,220,058	26,340,435
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!
	県補助金	目標値	円		
		実績値		10,970,000	13,169,000
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!
受給者数	目標値	人			
	実績値		1,274	1,295	
	達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!	
活動指標	助成件数	目標値	件		
		実績値		18,036	16,985
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!
	0	目標値			
		実績値			
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!
	0	目標値			
		実績値			
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!

◎事務事業の評価

妥当性 (必要性)	◎目的からして町が行うべきか ◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか ◎事業廃止による影響があるのか	1. 公共性を考えると、町が行うべき事業である。 2. 同様の事業は、他課・他団体は行っていない。 3. 廃止すると保護者の経済的負担が増加し、少子化が進む懸念が生じる。
有効性	◎目標に対して成果は得られているか ◎成果向上のための改善余地があるか	成果は高いと考える。 自己負担金の軽減や対象年齢の拡充等することが望ましいが、県の補助基準や町の財政状況等から、拡充は困難であると判断する。
効率性	◎活動量の効果は上がっているか ◎経費や時間の削減余地があるか	19年度から助成対象拡充(3歳から小学校就学前まで)に伴う町負担が増加したが、無料だった医療費を、一診療報酬明細あたり一人350円の自己負担をしてもらうことにより重複受診の抑制につながり、医療費全体の削減につながったと思う。平成20年10月診療分からについては、県の補助金の制度改正に伴い、3歳以上の外来分も県補助基準に合わせたときの町医療費負担の1/2補助金がつくようになったので、町の負担軽減につながった。
協働性	◎町民との協働の可能性はあるか(ボランティア・NPO等)	なし。

事務事業名	乳幼児医療費助成事業	担当課(局)	健康福祉課
-------	------------	--------	-------

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	◎担当者の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等	現行制度の維持が適当である。	今後の方向性				
			拡充				
			現状維持			○	
			縮小				
			廃止				
			廃止	縮小	現状維持	拡充	
			コスト				

事務事業評価委員会 評価欄	事業	現状維持	◎現行制度の維持が適当である。 ※「県の補助事業であり、事務事業評価に馴染まないのではないか」という意見もあり、次回以降に要検討。
	コスト	現状維持	